

## 研究ノート

# 元生徒へのインタビューによる授業の振り返り —「関東大震災と阪神・淡路大震災」(2001年実践)を対象に—

中西 仁<sup>i</sup>

筆者は2001年にA中学校において歴史授業「関東大震災と阪神・淡路大震災」を実践した。2023年は関東大震災から100年、朝鮮人虐殺事件をめぐる記憶の闘争が続いた。このことは筆者に授業をもう一度振り返ってみようという気持ちにさせた。そこで授業を受けた元生徒3名へインタビューを行った。インタビューに先立ち授業記録を送ったうえでインタビューに臨んだ。彼らは大学を卒業し、10年以上民間企業に勤務しており、大学で専攻した学問的見地や職業生活上の経験をもとに授業を振り返ることとなった。そのため、例えば企業での業務経験から「話し合い」という授業形態の重要性や、授業のより望ましい進め方を、インタビューにおいて指摘した。元生徒が授業について印象論ではなく具体的な指摘を行ったのは、彼らがインタビューの準備として授業記録を読み込み、授業の場面を自らの頭の中で再現したことも影響していると考えられる。以上のことから、授業記録を用いた元生徒へのインタビューは、授業実践の評価の方法として可能性を持つ方法であるとの結論に至った。

キーワード：話し合い授業，中学校社会科，インタビュー，授業評価，関東大震災

### はじめに

筆者は2001年に、関東大震災の朝鮮人虐殺事件について考える授業実践「関東大震災と阪神・淡路大震災」を行った。当時は虐殺された人々の数についての論争（「何千人か？何百人か？」）はあったが、中学校社会科の歴史教科書の本文には数千人の犠牲者がいたことが明記されていた。つまり文部科学省が教科書検定に於いて事実であると是認した事件であった<sup>1)</sup>。関東大震災から100年、震災時に起こった自警団等による朝鮮人虐殺は大きな焦点となった。例えば、内閣官房長官松野博一氏は記者会見（2023/

08/30）に於いて「政府内において事実関係を把握する記録は見当たらない」と発言しており<sup>2)</sup>、関東大震災時の朝鮮人虐殺は、政権がその事実を認めない状況となっていると言わざるを得ない。こういった動きは歴史教育の現場にも静かに深く広がっている。横浜市は朝鮮人虐殺が起きた地域の一つであるが、横浜市歴史博物館が公開している横浜市歴史博物館を活用した授業例「震災と横浜」（2020年）<sup>3)</sup>には、朝鮮人虐殺事件は一切取り上げられず、震災の被害状況と横浜の復興のみに焦点を当てている。パブリックヒストリーの最重要なアクターである公立博物館と、横浜市の公立中学校教員からなる「教材開発委員会」が、朝鮮人虐殺をスルーし復興のみに焦点を当てた授業案を、横浜市の中学校における関東大震災についての歴史授業の例（典型）として提示し

i 立命館大学産業社会学部教授

ている<sup>4)</sup>。

以上のような状況の中で、「関東大震災と阪神・淡路大震災」の授業をもう一度振り返ってみようという気持ちになった。そこで試みとして、授業で積極的に発言した元生徒3名に授業記録を読み込んでもらったうえで、インタビューを行うこととした。当時中学二年生であった彼らはすでに30代半ばとなっており、金融機関、メーカー、コンビニエンスストア本部で働いていて、「政治問題」や「外交問題」に直接的に関わるのがあまりない日常生活を送っている。「ごく普通」のビジネスパーソンである彼らが、このような歴史的事件を扱った授業を振り返り、いったいどのような感想や評価を与えるであろうか。彼らの感想や評価は、長らく社会科教師であった筆者には思いもよらない視点を提示してくれるだろうとの期待が膨らんだ。

## 1. 先行研究より

授業実践をインタビューという手法を用いて振り返った先行研究として挙げられるのは、村井淳史(2009)<sup>5)</sup>、金馬国晴(2016)<sup>6)</sup>等がある。

村井(2009)は大津和子の『一本のバナナから』<sup>7)</sup>の実践について5名の元生徒にインタビューし、その結果から大津実践の評価と村井の提案を試みたものである。村井はインタビューに際して、単刀直入に「バナナの授業はおぼえていらっしゃいますか」という問いを発して、元生徒に大津の実践を振り返らせている。村井はインタビューから「やや意外だったのは、『バナナ』の授業の、全国の社会科教師たちに与えた衝撃にくらべて、元生徒たちへのインパクトがそれほど強烈ではなかったという印象だ」と総括したうえで、「『バナナ』の授業をさらに発展させるためには、(略)多国籍企業についてフィリピンの労働者に対して行ったような調査・取材を行い、双方の切実性とその葛藤を描くことでドラマ性を成立させることだ」と提案する<sup>8)</sup>。村井は、テキストとして『一本のバナナから』を読み込んだ「全国の社

会科教師」たちが感じたインパクトと、授業の印象だけをもとにインタビューした元生徒たちのそれを比べており、非対称な感が否めない。元生徒たちに『一本のバナナから』を一読させたならば、インタビューでの元生徒たちの授業に関する発言は変わってきたはずである。

金馬(2016)は初期社会科の実践「西陣織」,「水害と市政」の実践者(元教師)に対面、電話、手紙などのインタビューで実践の再評価、すなわち今日的意味を問うている。金馬は18歳選挙権実施を射程に置き、主体的に考える市民の育成を目指すうえで、「新しい時代の問題解決学習」、すなわち「教える側(教師や学校、政策側)の計画が明確で、かつそれが裏切られるほど、子どもが逆に自立していき、主体性・自立性をもって、目標、内容をも自ら再構成していけるし、そうする力が養えるのではないか。こうした目標、内容の再構成を意図する」問題解決学習が必要であるとし<sup>9)</sup>、そのような問題解決学習の可能性を「西陣織」,「水害と市政」に見ている。であるならば、元児童・生徒が実際の授業実践でどのように学んだのか、授業後どのような人生を歩んだかについて元児童・生徒へのインタビューなどによる追跡調査は不可欠であろう。

## 2. 授業実践の概要

### (1) 授業の意図

授業実践当時を振り返ると、日韓関係は1998年の金大中大統領の訪日に始まる「未来志向の日韓関係」が両国関係の基調であり、翌年のサッカーワールドカップの共同開催を控えて日本社会には友好ムードが広がっていた。そんな折に関東大震災の際の朝鮮人虐殺について記した『ポッカリ月が出ましたら』という一冊の本と出会った<sup>10)</sup>。著者の朴慶南はこの本の紹介文で「この本を書こう!と思いたったのは、第三話にご登場いただく大川常吉さんの話を知ったときだった。とてもいい話だ。自分であることの、とびっきりのステキさ。今、生きているという鮮やか

な実感—“伝えたい”と思った」と記す。大川常吉とは関東大震災当時の神奈川警察署の鶴見分署の署長である。大川は関東大震災の流言飛語の中、生命の危険を感じ警察に庇護を求めた朝鮮人多数を鶴見分署にかくまったのみならず、「井戸に毒を入れた朝鮮人を引き渡せ」と押し掛けた群衆の前で井戸水を飲み、「井戸に毒を入れた」という噂が事実無根であることを自らの身体をはって証明し、多くの朝鮮人を守り抜いたという。後に大川は、無実の人が庇護を求めてきたら守り抜くのが警察官として当然のことに回想している。このエピソードを読んだとき、朝鮮人に対する差別意識が強い時代の、関東大震災という非常事態においてさえもこのような行動をとることが出来た人物がいたことに深く感動するとともに、日韓関係が好転しつつある時（2001年当時）であるからこそ、中学生にとって関東大震災における朝鮮人虐殺は記憶にとどめておくべき歴史的事実であると強く感じた。

## (2) 授業の設計

### 1) 単元の構成

本授業は中学校社会科歴史的分野（第二学年）の「第一次世界大戦と日本」単元のまとめにあたる。全7時間の単元構成は以下の通りである。

第1・2時「第一次世界大戦の流れ、各国の動き」:  
調べ学習、交流

第3時「もしあなたが当時の外務大臣だったらどの国を重視する?」: 国際関係図作成、発表

第4・5時「大正時代の日本」: 教師主導の説明中心授業

第6時「関東大震災と阪神・淡路大震災」: 第7時の課題についてレポート作成

第7時「関東大震災と阪神・淡路大震災」: 話し合い授業

### 2) 本時の展開

展開1では「関東大震災の際に起こった朝鮮人等の虐殺のような惨事がなぜ阪神・淡路大震災で起こらなかったのか」について、これまで学習してきた

大正時代の社会、国際関係、文化、科学技術、思潮と現代日本のそれらを比べて探求する。いわば根拠に基づいた予想、意見形成である。

展開2では展開1での話し合いを受けた上で、「関東大震災の際に起こった朝鮮人等の虐殺のような惨事はもう起こらないだろうか」という問いを探求した。こちらについては未来予測であり、この問いへの探求は一種の思考実験であると言える。

### (3) 授業記録<sup>11)</sup>

展開1 1. T-0	【前時の振り返り。「関東大震災の際に朝鮮人の虐殺が起こったのに、阪神・淡路大震災では起こらなかったのはなぜか」という問いに対して、生徒から出された意見を整理し、当時と今の「人々の考えの違い」、「科学・技術の発達の違い」、「政治・外交の違い」、「その他」に整理した。】
	【黒板をチョークの線で「人々の考え」「科学・技術」「政治・外交」「その他」に分ける】
2. T-1	2つとか、3つとか理由を考えてくれている人もいるけど、この4つのなかで、自分はどれが一番大きな理由だと思いますか。考える時間を少しとりますから、決まったら名前を貼りに来てください。
	【生徒たち「一番大きな理由」を考える。黒板の4つの区分のうち、自分の考えのところにネームカードを貼る】
3. T-2	ここのクラスは、「人々の考え方」が多いな。
4. T-3	少数意見の人から聞いてみましょう。Sa君。あなたはなぜ「政治・外交」が大事やと思ったの。
5. Sa-1	阪神・淡路大震災の場合は、諸外国から救援隊が来て助けたりとか、あと関東大震災の時は、日本が朝鮮半島をほとんど占領みたいな形で植民地化しましたが、今回の場合は友好関係があって、外交もしていて、神戸市にも朝鮮人の人たちが、しつかりと普通に暮らしているという感じで、外交的なものもしつかりしていたというのと、自治体の素早い行動や警察等の救援等の活動の広がりが速かったというのが、僕が政治・外交を選んだ理由です。
6. T-4	それでは、次。「その他」の人たち。「その他」でまとめたけど、全部内容は違うかも。

7. Sb-1	「人々の考え」に近い。私の考えは「精神的にパニックになるかならないか」。	18. Si-1	今やったら、朝鮮人が毒を入れていたと言っても、朝鮮人をひどくくりにしないと思うから。
8. T-5	精神的なパニックと「人々の考え」はどちらがうかな。	19. Sj-1	関東大震災の頃は、戦争とかで日本が勝っていて、自分たちが強いというイメージがあって、植民地化していた朝鮮の人たちなんかは、自分たちより弱いと思っていて、自分たちの方が上だと思っていて、別に殺したりしても構わないとか思っていたけれども、阪神・淡路大震災の時には自分たちが一番じゃないと言うのも、わかっていたし、朝鮮や韓国の良さもわかっていと思うし、朝鮮や韓国に対する見方が変わっていたと思う。
9. Sb-2	混乱するか、せーへんか。	20. T-8	パニックや流言飛語が起こらなかった原因は何？
10. Sc-1	関東大震災の時は被害が大きくなって、ちゃんと判断できる余裕がなくて、そういう噂が流れてきて、そのまま信じ込んでしまったけど、関東大震災より阪神・淡路大震災の方が、被害が小さくなってちょっと余裕が出てきて...	21. Sj-2	地震がそれまでもたくさんあって、その対策を考えられていたから。
11. Sd-1	地震というのは加害者というものがいないから、自分たちが被害を受けても文句を言ったりそういう者がいないが為に、加害者として日本人じゃない朝鮮人の人たちとか、そういう人たちが加害者に当てられてしまった。家族がバラバラとか、自分の家が壊れたとか被害が大きかった分、朝鮮人の人たちに対する憎しみによる犠牲が大きかった。	22. T-9	黒板に書いてあるいろんな人の意見と、自分の意見を比べてみてください。
12. T-6	よそのクラスで人気があった「ラジオ・テレビ・科学技術」が原因を選んだ人。	23. Sk-1	関東大震災の時は、災害に対する対策がしつかりとれてなくて、阪神の時は、前例やそれに対する対策が考えられていたから、違ったと思います。人々の考えとか、外交・政治とか、科学技術とか、すべてのものがうまく重なって、阪神・淡路大震災では被害が少なかった。
13. Se-1	やっぱり正確な情報はラジオが一番速いから、テレビは地震があったら壊れるから。ということでラジオと懐中電灯と非常食は、災害の時は絶対持っておけと言うし、ラジオを持っていたらこんな混乱は起こらなかった。	24. Sf-2	全部昔と今との違いが関係している。外交でも、昔は朝鮮は日本の植民地だったので、日本のことを悪く思っていると思ったから、そういうあれこれもあったと思うから、(自分と意見が違う「人々の考えの違い」という意見も)合っているなと思った。
14. Sf-1	僕も今はラジオとかテレビとか情報がまわるのが速いけど、昔は新聞と、あと噂とかでしかまわらなかったから、災害が起こったとき人々が、パニックになって、噂とかに左右されやすかった。噂に左右される度合いが違って、それがラジオがまだなかったのが原因だった。	25. Sb-3	みんななどの意見も外せないな。
15. Sg-1	昔は情報とかあまり入ってこないから、人の言葉を簡単に信じてパニックになってしまったけど、今はラジオとかが発達しているので、人がうそをついても、全く相手にされないとと思う。	展開 2	
16. T-7	それでは「人々の考え」を選んだ人の意見を聞いてみよう。	26. T-10	それでは次の問い、「関東大震災のような流言飛語によるパニックは今後起こると思いますか、起こらないと思いますか」について自分の考えをまとめてみてください。時間は5分間とります。
17. Sh-1	「政治・外交」の違いにもちょっとかかるけど、こういう大災害とかあった後やったら、自分勝手なことばかり考えると、周りのことも考えて、みんなしつかりやっぺいこうということを、ちゃんと頭に入れておいたり、しつかりまとめられる人がいないと、被害が大きくなる一方。みんなで協調していこうという心が昔は乏しかったんやと思う。		【生徒、ネームカードを黒板の「起こるかも知れない」「起こらないと思う」どちらかに貼る】
		27. T-11	「起こるかも知れない」と言う人が12人。「起こらないと思う」と言う人が27人。
		28. T-12	ここでお互いに考えてみたいと思います。どうですか「起こらないと思う人」なぜそう思いますか。

29. Sl-1	自然災害のことはみんなわかってるし、人間が災害を起こすことは現在では無理とわかっているから。
30. Sm-1	関東大震災の被害を知らなくても、阪神・淡路大震災の被害は知ってる。みんな防災意識を忘れていと言っても、必ずどこかに覚えているはずやし、政府とか自治体もそういう災害があった場合の対策を前よりしっかり考えているはず。そやからみんな今自分がするべきことを考えて、ボランティアなんかするから、そういう被害は起こらないと思う。
31. Sn-1	そういう災害が起こって、デマとかが起こっても、今は色々な情報とか得られるし、それを消そうとする動きの方が大きいから大丈夫。
32. T-13	消そうとする考え方は？
33. Sn-2	それは違うと言える人がいるということ。
34. So-1	今はどんどん考え方が変わってるし、デマを本気で信じる人がいない。
35. T-14	出てきた意見についてどう思う。
36. Sp-1	Snさんの意見に対して。情報が発達して流言飛語が阻止されるっていうけど、逆に、テレビやラジオが流言飛語を間違って伝えたら、を間違って伝えたら、あつという間に広がって、止めようとしてももう遅い。
37. T-15	そんな最近ありましたね。O157とか炭素菌とか誤った情報が流れて被害を受けた人がいましたね。
38. Sq-1	Sn君の今の人と昔の人では考え方が変わっているという意見やけど、確かに変わっている人は多いけど、それでもデマを信じるような人とか、ねらってパニックを起こそうとする人が、最近でも確かに平和になったけど、事件みたいなことは絶えず起こっているし、人々全体の考え方が変わったとは言えない。
39. Sh-2	デマを本気で信じる人は今でもいると思う。例えば流言飛語によって被害をもらって受けた人とか、被害を受けた人の肉親とかだったら、感情に流されてそういうデマを信じるかも知れない。
40. Sj-3	確かにデマを信じてしまう人は多分いると思うけど、そこから行動に移そうとする人がいるかどうかは、また別だと思う。信じる信じないはいつの時代にも多分そんなに人数は変わらないと思うけど、そこから行動を起こす世の中かどうかは、多分時代によって変わると思う。

41. Sr-1	えっと。2000年問題。水を貯めていた人もいるし、やっぱり日本人は信じやすい。
42. T-16	2000年問題の時に水を貯めていた…。けど2000年問題ってデマかな？
43. Sr-2	デマでしょ。起こらなかったから。
44. Sq-2	流言飛語が起こらないという可能性は無いことはない。
45. Sb-4	私もSjさんと同じで行動を起こし人がどれだけいるかは時代によると思う。私はノストラダムスのことちょっと信じてたんだけど、やっぱり遺書とか書いたり行動に起こした人は少なかった。
46. T-17	デマとかパニック自体について何か意見はありますか？
47. Ss-1	Sp君の意見についてだけど、確かに行動に移す人はいるけど、いやいるかもしれないけど、関東大震災の時よりだいぶんやさしいと思う。
48. T-18	やさしいって？
49. Ss-2	そんなにひどくない。人を殺すまでは行かない。
50. Sd-2	よくわからないけど、今までの災害より大きな災害が起こるかもわからないし、映画みたいに円盤が落ちてきたり、宇宙人が攻めてきたり、そういうことも考えられなくはないし、だからそういう大きなパニックの中では、小さいパニックのなかではデマは信じないとか、人のためになんかするという人でも、ほんとうに自分が死ぬような、生きるか死ぬかの狭間に置かれたら、人間って多分自分のことしか考えないし、流言飛語とかが流れたら自分の身をまもるためやったら何でもすると思う。
51. Sg-2	時代は変わっても人間の本性は変わらない。
52. Sh-3	確かにSbさんの言うように、身勝手な人は昔は多かったと思うけど、大災害の時でも理性を保っているとか、極限状態に成りにくい人はいるだろうし、そういう人が現在では増えているだろうし、パニックは起こりにくいと思う。
53. Sa-2	例え冷静だと言っても、アメリカにこの前悲惨な事件(9.11)がありました。日本にも(犯人たちと同じ組織の)一部の人たちが潜伏していると言うことで、飛行機を乗っ取るんじゃないかという噂も流れまして、それによって飛行機のキャンセルがどんどん増えていって、空席が目立つようになったと言うことは、これもやっぱりデマが招いた被害の一つだと思うので、今の人たちが冷静に考えられるって所までは行ってないと思います。

54. Sj-4	今のSa君の意見に対してですけど、テロでキャンセルが目立ったというのは、あくまでもその可能性がまだあるから、その対策としてキャンセルとかしたわけであって、デマを信じたとかそういう事ではないと思います。
55. Sk-2	昔は大日本帝国憲法で、人の人権が法律で規制されていて、特定の人たちの人権なんか全然重視されていなかったけど、今の世の中は日本国憲法で全ての人たちに人権が与えられていて、人間は皆平等だという精神が根付いているから、もし何かあっても多分その枠の中で解決すると思う。
56. Sd-3	もし法律の中で人権が守られるとか、差別がないとかそういうのが決まっても、今現在京都にも差別がたくさんあるし、まだ残っているから、上が新しくなっても、下とか昔から続いてきたものがすぐ変えられるって事はないので、そんなに簡単には変わらない。
57. T-19	時間になりました。最後に何か言いたい人。
58. St-1	アメリカがいま不安定だから、もし災害が起きても救援が得られないから、日本でもし災害が起きても不安定になって、争いが起こりそう。
59. T-20	時間が来てしまいました。まとめを書いて下さい。

### 3. 元生徒へのインタビュー<sup>12)</sup>

#### (1) Sf へのインタビュー

Sf<sup>13)</sup> は現在、金融機関に勤務し営業を担当している。大学では国際文化を学び、卒業論文ではオバマ氏が大統領となった2008年のアメリカ大統領選挙を取り上げたという。家族は妻と子である。Sf へのインタビューは2023年9月14日の18:30~19:30に対面で行った。授業でSfは展開1においては、活発に発言していたが、展開2では発言が無かった。そのことについてのやり取りが、以下のようであった。Sfは中学校時代には、「正解探し」の発問には積極的に参加していたが、未来予測というに「答えのない問い」に対する思考実験の学びからは「降りていた」のである。しかし流動的な社会、経済の状況の中で、顧客の経営状態を多面的に把握しながら、営

業方針を計画していかなければならない金融機関の営業という仕事に携わるようになってから「答えのない問い」を考える大切さを痛感するようになった。

中西 展開2から後が難しいのかな。「こういうパニックは起こるでしょうか？」という話をしているんやけど、意見が出なくなってしまって。展開1はなんか、いろんな理由を探すんやけど。展開2は予想。未来の。「予想」とかはどうなん、正解はないよね。正解探しは、「どれが最も合理的な答えか」ということや。ここから先は「合理性」もない。今でも苦手か。「答えのない問い」は。

Sf 「答えのない問い」は、もともと苦手でしたね。うちの会社の研修で既成概念を取っ払って、未来のこと、「十年後の金融機関はこうだ」みたいなのを考えようと。僕ら、金融機関独特の定規で考えがちですけど、そんなのを取っ払って。先進的なベンチャーをやってはる社長さんの話を聞いて「十年後の金融機関」とか「十年後の買い物はこうや」ということを考える研修が、うちの会社であるんですよ。それに参加してから、わりと先の答えがないものを発言する時、今までちょっとストップをかけていたのを、ストップをかけんと、いけるようになったのが、研修があってから。ちょっとだけ以前に比べたら。

中西 それは、いつくらいに？

Sf ここ二、三年です。

「答えのない問い」の大切さを理解するようになったSfに対して、社会科における話し合い授業についての評価を尋ねたところ、意外な回答が返ってきた。Sfは話し合いという活動の大切さについて同意しつつも、授業者の工夫や一種の意気込み、気合が必要であることを、職場における体験から指摘する。

中西 こういう授業のスタイルは、どう思う。「話し合い」とか。てっとり早くいったら、ただ教えたええわけや。教科書でパーッと。僕の授業づくりの考え方は「教える授業」の後に「話し合い」をするという考え方やけど、「めんどくさいな」

とも思うねん、「もう教える授業だけにした方がいいかな」と。そういう意見も根強くあって、それはそれで「そうやな」と思うけど。ここは率直にってもらっていいけど、「こういう授業のスタイルって、どう思う?」。受ける側として。今、大人になって。親としてでも、ええわ。どう思う? Sf 一方通行で授業するよりも双方でコミュニケーションをとった方がいいとは思いますが、でも結構、最初の出だしとか、発言が、みんななかなか出なかつたりする。やる方としては工夫が必要だと思ってる。

中西 そう来たか。僕、毎回な、「ほんまにできるやろか?」と思って、やった。「50分、話し合えるかな?」と。ワークシートに書いて、それを順番に発表させた方が、楽やねん。それではオモロくないし、これを、あえてやってるわけや。

Sf 僕も、なんでそんなことを思うかという、住宅ローンの話しあいとか、今まで仕事でやってきて、結構、得意分野みたいな。うちの会社で「マイスター制度」があって、「弟子に教える」というのを、これを去年、一年間、活動でやっていて。

中西 弟子はどんな人や。新卒か?

Sf いや、入社三、四、五年目とかもいれば、2つ先輩もいるし。

中西 2つ先輩がいるのはやりにくいな。

Sf 2つ先輩は前にいっしょに働いていたので気が知れていて、もっと上の人、六つ七つ上くらいの人もいて「教えることが、ないやろ」と。コロナやったので基本、Zoomでやって、確かに一方的に自分の知っていることをレジュメつくってやる方が楽は楽なんです。ずっと言っていたらいいわけなので。でも中には、40分のZoomで、自分らの「ここ最近のこと」とかを発表してもらう会を設けたんですけど、「工夫が必要やな」と思いました。「盛り下がる」か「盛り上がる」か。

## (2) Sj へのインタビュー

Sj (女性) はメーカーの事務職である。高校では理系のクラスに入り、大学では生物学を専攻した。現

在、両親と同居している。Sj へのインタビューは2023年9月28日の18:00~18:45に対面で行った。今回、筆者自身が授業実践を読み返した際に、気になった箇所があった。通し番号18のSiの「今やったら、朝鮮人が毒を入れていたと言っても、朝鮮人をひとくりにしないとと思うから。」という意見に続く通し番号19のSjの発言である。Siは在日コリアンであり、名前を通じて自らの出自を明らかにしている生徒であったが、引込み思案で何かとからかいの対象となっていた。筆者は朝鮮人虐殺を扱った授業でSiをスルーすることは出来ないと感じ、指名したが、Siは非常に暗い感じで発言したことを記憶している。この印象は授業の参観者からも指摘された<sup>14)</sup>。このことはずっと気になっていたが、授業記録を改めて読み返すと、Siの次にSjが関東大震災当時と阪神・淡路大震災時では日本人の「朝鮮や韓国に対する見方が変わっていたと思う。」という発言をしていたことを確認し(19.Sj-1)、もしかしたらSjはSiを支える意図でこの発言をしていたのかもしれないと感じた。その予想は当たっていた。このことは、話し合いの授業では教師の気づかない生徒同士の人間関係から派生する文脈が存在することを示している。

中西 あなたの発言の前に、いわばSiがカムアウトしているわけやんか。「在日だ」ということを。Sj そうですね。

中西 でも、お母さんは、もともと日本の名前を名乗っていて、でもカムアウトして、そのことが自分の中で消化しきれていないような感じもあって、それでもここでこのような発言をしたように見えるんやけど。

Sj 可能性としては、あると思います。というのは、当時ですけど、やっぱり、ちょっと彼女が、からかわれていのも知っていますし、それに対して私が腹を立てていたことも自分としては鮮明に覚えているので。

中西 ここは自分で手を上げて。

Sj 手を上げています。中学の時は、すぐくそのへん積極的に発言していたので。

中西 読んで、多分、そうかなと。あの子は中学から編入して来て。〇〇から来ていて、近所に友だちもいないし。

Sj ちょっとからかっている空気があったので、すごく思っていたのはあります。

Sj は展開2で「確かにデマを信じてしまう人は多分いると思うけど、そこから行動に移そうとする人がいるかどうかは、また別だと思う。信じる信じないはいつの時代にも多分そんなに人数は変わらないと思うけど、そこから行動を起こす世の中かどうかは、多分時代によって変わると思う。」(通し番号40)と発言している。筆者は「時代によって変わる」という発言を現在のSjはどのように感じているかを問うてみたくなった。なぜなら2001年当時とは違った様相を現代日本社会は呈しているからである。すなわち授業から10年もたない2009年に京都朝鮮学校襲撃事件が起こった。また2022年には在日コリアン集住地区(宇治市ウトロ地区)への放火事件が起こっている。これらの事件はいずれもヘイトクライムとされる。即ち、在日コリアンへの根拠の無い憎悪に起因する直接行動を伴う差別犯罪である。

中西 「今後、起こりますか?」ということを知っているけど、Sjさんの答えは「時代が変わった」ということかな。行動に移す人と行動に移さない人がいるんだけど、そのへんの発言、自分の発言を見て、どう思う?

Sj 特に一個目の「信じてしまう人がいても行動に移すのは別」というのは当時の理想というか、「そうだといいな」という希望的観測も込みだなという感じで。正直、「今はここまで甘くはないよな」と思っているのが事実ですね。特に時代によって変わると自分でも言ってますけど、SNSが絶対、今は20年前とダンチに違うので、自分自身も、ひっかかっている時もあるので、情報が特に速いものを見て「そうなんや」と一回引っかかって、よくソースを調べたら「それはデマだった」という

ことがあったりする。情報の精査が昔に比べてダントツに難しい。

中西 技術が、いるな。

Sj 今、この時代でいうのであれば、この「デマを信じる、信じない。しかも行動につながる」という確率は跳ね上がってしまったというのが正直なところですよ。

中西 ここは時代の流れを感じながら、2002年に日韓ワールドカップがあったり、SNSがない部分でいうと。あと金大中が大統領になって未来志向になって。

Sj そうでしたね。わりと。

中西 ところが、そこから大変なことになってしまって。SNSというのは、そうやな。実際にいろんな事件もあったし、ここ数年。これにかかわらず、いきなり逆上して過激な行動をとる人間も増えてきたりして。

Sj そうですね。昔も、いたんでしょうけど、それこそネットワークが低いから。今はどんなところからでも情報が入ってきちゃうので。そこが大きく違うなと感じますね。

中西 今、覚えている範囲で、なんでここは、こういう意見が出たんやろ。

Sj 多分ですけど、私は基本的には「性善説」を推していたとされていて、実際に「性善」とか「性悪」があったとしても、「だ、といいな」というのが前提としてあって、なんか自分としては「悪いことが起こったとしても、最終的に最悪の事態まではいかないでほしいな」という期待、願望があるなということ自分の発言から感じますね、これは。そのへん、20年前から変わってないと思いますね。

Sj は現代日本社会の問題点を指摘しつつ、「性善説」を推したい」と発言している。希望を失わないという立場で授業記録を読み返し、20年前から変わらない自分を再発見している。Sjのような立場は差別にはっきりと反対し行動するというスタンスからは遠いかもしれない。しかしSjは根拠の無い差別

的な情報には根拠を精査し、根拠の無いものに対してははっきりと反対する意思を持っている。その上で差別によって「最悪の事態」が起らないことを願っている。そこには、授業の際に在日コリアンのSiを支える発言と同質の市民性が感じられた。

### (3) Sa へのインタビュー

Sa はコンビニチェーン本部に勤務し、フランチャイズや直営店のアシスト業務を行っている。最近結婚した妻がいる。Sa へのインタビューはSa が東京勤務のため、2023年10月5日の19:00~19:30にビデオ電話で行った。

Sa は中学生の頃は歴史好きで、大学では日本史を専攻し、古代から中世にかけての「御霊会<sup>15)</sup>の広まりとそれを国家が吸収していく研究」(本人談)をしていた。Sa は自らの大学時代の研究で得た視点から授業記録を読み返し、中学校時代の自らの学びを評価している。つまりSaにとって中学校時代の歴史の授業での学びは、その後のSaの歴史学研究の文脈に位置づけられるのである。Saは研究者への道を歩まず民間企業に就職するが、Saにとって歴史とは単なる趣味ではなく、様々な事象を解釈する時に参照する社会科学なのである。呉永鎬(2021)は、「二〇一〇年前後に始まるヘイトスピーチの方法は、確かに新しい。しかし一九二〇年代に成立した在日朝鮮人社会の歴史を踏まえるならば、ヘイトスピーチもまた、日本社会で連綿と繰り返されてきた人種差別の一形態として把握されるべきである」とする<sup>16)</sup>。Saの発言は呉の捉え方、つまり各時代を貫く長期的視野による普遍的な歴史観、人間観に繋がる。

中西 「流言飛語による被害、小さな被害ではなく、虐殺とか大きな被害が起こるかどうか」について「今の人間も、そこまで冷静ではないと思う」。この意見は、どう思った？

Sa 虐殺までは行かないかもしれないですけど、実際、デマの被害とか、東日本大震災の後、福島

の農産物の話とか、近くは処理水の話で日本だけでなく、外国にも影響する話がありますけど。いくら安全が強調されていたとしても、安心感がないんだと思うんです。

中西 この意見は今も、20年たっても？

Sa 「人って、そんなに冷静じゃないな」と。

中西 変わらない。

Sa 「何かしら考えないと変な方向に進むのでは」というか。

中西 そうか、そうか。これも変わらないということやね。はいはい。Sjはこの後、SNSとかが出てきて被害が広がっていく可能性が高い。この時は、そんなに大したことはないと思ったけど、今は違うといっている。あなたは先見の明があったということやね。「人は基本的には変わらない」ということやね。

Sa 特に歴史の勉強をしていると「流言飛語」はいつの時代も、よく出てくると思っていますし、情報伝達の仕方が変わってはいるにせよ、何か昔からこういうのがあって。特に御霊会の研究をしていると「流言飛語」が飛び交う話になってくるので。

中西 コロナ禍と御霊会の時代と、ほとんど変わってないというか。1000年前の話が。

Sa 社会は変わってないと思います。

中西 Saは歴史的に過去を振り返って考えるような思考のパターンを昔からもっていたと、自分でも思う？

Sa そう、歴史が好きだったので「過去がどうだったのか」というのは考えていたのではないかと思います。そんなにはっきりは出ていないにしても。

Saは授業を振り返りながら本実践の方法について提言をくれた。Sfも語っていたように、企業、特にサービス業では予測が難しい問題に対する話し合いは業務の一部と化しており、そのような話し合いを如何に上手くファシリテートしていくかが、職能の一部となっている。現在、学校教育に於いてはア

クティブラーニングが重視されているのは周知のことであるが、Saの語る話し合いを上手く進める方法は、まさしくアクティブラーニングへの提言となっている。

Sa 後半になってくると「意見をどれだけ引っ張っていき人をつくるか」が難しいのかなど。特に授業になると、そうなんだなと思って。うちの会社でもディスカッションとかでグループ単位でやりますが、小さくなればなるほど、ある程度、調整が付きやすいんですけど。

中西 いろんな議題がある。何か目標があってフリートーキングしていくという？

Sa 基本的にはそうですね。仕事に直結するディスカッションもあれば、研修的なのもあって。うちはコンビニエンスストア本部で。本社の方にいて現場に戻ってきたんですけど。管理職研修とか結構あるので。プレーストリーミングで、ある程度、課題とか状況設定が与えられた中で「お客さんにはどうするか」、解決することに関しても結論は指定されてなくて、みなさんがどう考えるか、ゴール設定を、どこに置かかという課題があって、「どういう内容で、それを解決していくのか」というのを上に出していくディスカッションの仕方です。

中西 そのファシリテーターとかを、やらされているわけ？

Sa それも特に指示は与えられてないので、その場の空気感で、ファシリテーターになる人と、全体のタイムキーパーで、まとめたりする人とに、自然に分かれていって。どっちかという「まとめ側」に回っていくことが多いみたいです。

中西 授業とは違うけど、話し合いをマネジメントをしていく部分が大きいわけやね。

Sa 管理者研修になると、そこが、かなり重要視されてくるので。

中西 そこで何か工夫していることある？「議論を転がそう」ということで。

Sa 基本的には「誰の意見も否定しないように」しています。

中西 そのつもりでやっていたけど、ただそれでは広がりすぎて、うまく転がらない時もあると思う。

Sa その時は「出てきた意見を分類」したり。「出てきた意見を深掘り」したり。たとえば「時間軸」だったり。「それをするには何が必要なか」「どういう条件があるのか」を考えて。

中西 そのこのへんの発想が僕にはなくて結構、後半、どんどん指名して全員にいろいろ聞いている。「対立軸」は示せたと思うけど、それは問いの中にあるから。〇〇時代ならどうなっていたという「時間軸」とか、外国やったらどうなってるかという「空間軸」とかを留意したらよかったという気もするな。

#### 4. インタビューを振り返って

##### (1) 生徒の「変化」について

現在、社会科の様々な授業研究会や研修でよく話題になるのが、授業で児童・生徒がどのように変わったかという点であるという<sup>17)</sup>。おそらく「主体的で対話的で深い学び」を目指す現行学習指導要領の影響からであると考えられる。しかし、授業記録を用いた振り返りでは、下記のSaとのやり取りからわかるように、三人の元生徒たちは現在の自分の思考パターンとの連続性に気づき、そのことが確認できたことを懐かしく振り返っている。インタビューからは、たった一回の授業とは比べ物にならない強さ、深さ、継続性を持つさまざまな人生経験を経ても、個別具体的な社会的事象に対する個人の意識、見解は連続性を持つことが分かる。この点から考えると、一回の授業で個人の意識や見解をはっきりとわかる程度に変えるというのは、非常に困難であり、「変わった」と授業者が感じたとしてもそれは生徒の表面的な意識や見解であろう。「変わったかどうか」を議論するならば、「変わった」のが「どこまで」で、「何を」ということをまず確認する必要がある。

中西 2001年やから22年前やね。自分の意見を読んでどう思う？

Sa まあ、「あんまり思考の根っこのところは、そんなに変わってないな」と、正直。

中西 今、これを読んで、どんな感じがする？「政治、外交の発達が阪神・淡路大震災で流言飛語の被害が起こらなかった原因」という意見。

Sa 若干、粗削りな感じがしますけど。

中西 粗削りな感じがする。今やったら、もうちょっといろんな意見を言う？

Sa いろんな背景を理由に、ここの説明ができるんじゃないかなと思います。

中西 なるほど、な。意見としては自分では納得できている？

Sa そうですね。今回、読み返した時、やはり「政治、外交」のところに目が行くというのは。

中西 SfもSjも同じように言うてるねん。「忘れていたけど読んだら、ああ自分だ」とわかったと。20年たってもなんとなく考えていることの根っこというのは、変わらへんのやな。

## (2) 発言の背景

元生徒たちは22年間の時間を経て、授業記録の中の自分を見つめなおしている。彼らの発言の背景は何であろうか。

まずSfとSaとのインタビューからは日常業務、仕事からの影響が認められた。ともに勤務先では問題解決や先を見通した営業の為にブレインストーミングのような話し合いが日常的に行われている。社会科授業の話し合いとは全く違った高い切実性を持った話し合いには違いないが、注目すべき点は、その経験で培われた話し合いの進め方のノウハウで中学校時代の話し合いを振り返っている点である。つまり、社会科授業の話し合いと企業での話し合いは彼らの中で連続したものという感想を持ったのである。インタビューを行いながら、様々な職業上での経験を経た社会人に授業実践を振り返ってもらう面白さを感じた。

次にSjとSaからは中学卒業以降の学び、特に大学で専攻した学問の影響が認められた。Saについては上記の如く大学で専攻した日本史学の見地から授業実践の課題を振り返っていることがわかる。インタビューで「文系的な掘り下げ方が自分の中でピンとなくて、それよりは明確な解がある方が」と語ったSjは、大学で専攻した生物学、自然科学の見地から授業を振り返っている。Sfは、SNSのように「情報が特に速いもの」については精査するという態度で情報に接している。これは実験や観察を繰り返し、慎重に結果、結論を導き出す生物学の学問的態度であろう。そのような態度によって本授業実践が取り上げた事実を過去のものではなく、現代社会にも起こり得るものだという見解に達している。

Sjは家族との関わりにも言及する。

中西 答えのない問いを、昔から考えるのは結構、得意やった？

Sj もしかすると家族でそういう話を、よくするからかもしれません。父親の方が、こういう話題を好きというか、テレビを見ていてコメンテーターの発言を受けて「これはどういう問題で、今後、どうなりそうで、どうしてこうならないんだろうか」という話をしたりして。

中西 子どもの時から？

Sj テレビを家族で見ている。中学以降かもしれません。特に政治とかに興味をもち始めたのは。一人っ子なので、きょうだいがいない分、母親、父親が身近な家族で、教えてくれることが、それぞれ違うので、どっちの話も耳を傾けたくなる話があって。父親は理屈、理詰めのタイプで、母親はメンタルな感じなので、その差は大きいかもしれません。

Sjの話し合いについての態度や社会的事象に対する関心を高めたのは、まず両親であった。中学生が意見形成する際に家族、特に親、祖父母、兄姉からの影響はとても大きいと考えられる。しかし、例えば授業を受けた直後の中学生にインタビューしても、ある程度、家族のキャラクターを相対化できる年齢

に達している Sj のように、その影響を冷静に分析し、語ることは困難であろう。

以上のことから社会人となった元生徒のインタビューの回答は、職業生活、大学での専門的学び、家族からの影響など複合的な要因が混じり合ってなされたことがわかった。

### (3) 他の実践を読んで

インタビューを検討した後、関東大震災時における朝鮮人虐殺を取り上げた他の授業実践を読んでみた。

小川輝光による高等学校日本史実践「学校史で学ぶ関東大震災」(2013年実践)<sup>18)</sup>は、小川が勤務する神奈川県内の高等学校の前身にあたる高等女学校の関東大震災に関わる生徒及び校長の手記を史料として、朝鮮人虐殺事件が当該学校周辺で起こっていることを確認し、関東大震災を振り返る授業である。生徒に関東大震災当時を振り返らせたうえで、小川は東日本大震災と比較している。

高嶺直己による中学校社会科実践「なぜ朝鮮人虐殺は起きたのか」(2023年実践)<sup>19)</sup>は、関東大震災当時の地元である横浜の小学生の日記を生徒に読ませたうえで、「なぜ朝鮮人虐殺は起きたのか」について、生徒に自説をまとめさせたうえで、代表的な意見を取り上げて意見交換を行っている。そして授業後に討論を踏まえたうえでの自説をレポートにまとめさせている。

前述した横浜市歴史博物館の授業案に比べて、同じ横浜市での小川や高嶺の実践は歴史的事実の記憶という観点から高く評価されるべきであろう。史料も一次資料を使用しており、歴史学研究の手法を採用した歴史授業とも評価できる。歴史授業としては「朝鮮人の虐殺はなぜ起こったか？」で踏みとどまるべきであるという実践者の意図、誠意も感じられる。それに対して筆者の実践は「再び起こらないであろうか？」を問うている。管見にしてこのような問いを発した実践(記録)には出会っていない。この点は本実践の大きな特徴であり、歴史教育として本当

にこれで良かったのかという疑問を感じていた。しかし今回社会人となった元生徒からインタビューで、彼らから「再び起こらないであろうか？」という「答えのない問い」を伴う思考実験的展開が、職業生活を送るうえで「このような学びこそ必要である」という評価を得た。つまり歴史的事象を学び未来を予測するといった歴史学習は、学校から職業生活までの生涯学習の文脈に位置づくのである。もし本授業実践を再設計するとするなら、惨事はもう起きないだろうかについて考えた展開2の話し合いの進め方を、更に工夫する必要があるだろう。Saがインタビューで答えてくれた「軸」を導入した話し合いの進め方もひとつの方法であろう。

### おわりに

社会人となった元生徒に授業記録を用いて授業を振り返ってもらおうと、自らの学びや授業について果たしてどのような評価を下すか、という興味関心に基づいてインタビューを行った。より正確な振り返りを行うためには、インタビューの内容についてはさらに読み込み、分析する必要がある。授業で積極的に発言しなかった元生徒や、より多様な大学での専攻、職業、社会生活を経験した元生徒へのインタビューを重ねる必要もあるだろう。また、インタビュー(筆者)が元教師でありインタビューを受ける者が元生徒であるならば、筆者が気づかないところで、かつての教室での教師と生徒という関係が再現し、元教師側(筆者)が無遠慮に誘導質問的な質問をしてしまっていたり、元生徒側も元教師の意図に沿った発言をしたかもしれないという可能性に留意する必要がある。

学校現場ではよく授業直後や学期末などに現役の生徒による授業の振り返りが行われ、授業改善の有力な手段とされている。しかし、現役の生徒は教師からの成績評価を常に留意しつつ振り返ることになるだろうし、年齢や生活経験からも十分に自分の学びを相対化した振り返りは難しいと思われる。元生

徒は成績評価を気にする必要はない。様々な学びや職業経験を経ているので、自分の学びを十分に相対化して振り返ることもできるだろう。今回のラフなインタビューとその分析であっても様々な発見があった。様々な課題があることは承知しているが、授業記録を用いた元生徒へのインタビューが授業評価の一つの方法として可能性を持つことを指摘しておきたい。

#### 注

- 1) 文部科学省の教科書検定に於いては、教科書の本文の記述が検定の主たる対象となる。現行の中学校歴史教科書(東京書籍『新しい社会歴史』)ではこの事件は本文より重要度が低いコラムで扱われている。
- 2) 内閣府が設置した中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会による『関東大震災報告書』(2009年)第4章第2節の「殺傷事件の発生」執筆者の鈴木淳は、「司法省や警視庁、関東戒厳司令部などのその時代の公的記録に基づいて、殺傷事件の概要を書いています」と述べる。(『朝日新聞デジタル版』「政府は朝鮮人虐殺「記録ない」報告まとめた学者は「読んで判断を」」(2023/09/18閲覧) <https://digital.asahi.com/articles/ASR9K4T1YR9FUTIL01X.html?pn=9&unlock=1#continuehere>)
- 3) 横浜市歴史博物館「博物館を利用した授業例」(2023/12/14閲覧) [https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/taisyou/school/ex\\_class/](https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/taisyou/school/ex_class/)
- 4) 新井勝紘によれば、横浜市の中学校の副読本『わかるヨコハマ』2012年版は、ある市議会議員からクレームにより回収、融解されたという。『わかるヨコハマ』の「軍隊や警察、自警団などは朝鮮人に対する迫害と虐殺」を行ったという叙述に対して、ある市議会議員が「わが国の歴史認識や外交問題に影響を及ぼしかねない」というクレームを寄せ、教育長が改訂と回収を明言したからである(新井(2023) p.5)。
- 5) 村井淳史2009「国際理解教育における多国籍企業の教材化—大津和子『一本のバナナから』の元生徒の聞きとりから—」『教育学部紀要教育科学編』48
- 6) 金馬国晴2016「問題解決学習「西陣織」・「水害と市政」の再評価—コア・カリキュラムおよび全面主義道徳との関連から」『横浜国立大学教育人間科学部紀要 .I. 教育科学』18
- 7) 大津和子1987『社会科—一本のバナナから』国土社
- 8) 村井(2009), pp.86-87。
- 9) 金馬(2016), p.35。
- 10) 朴慶南1992『ポッカリ月が出ましたら』三五館
- 11) 実践記録の発言の左には通し番号、発言者、発言者の何番目の発言かが記されている。例えば「45. Sb-3」とは、通し番号45、生徒bの3度目の発言という意味である。Tは教師である。インタビューした元生徒は太字で示した。
- 12) インタビューに際しては対象者に対して、本論文の目的、資料としてのインタビューの使用を事前に説明し、同意を得たうえで行った。また音声の録音及び逐語記録化について許可を得ている。論文の投稿の際には、対象者に本論文の草稿を読んでもらい、不同意な記述があれば削除、訂正する旨を伝えたとうえで、内容についての承認を得た。尚、対象者の職業や経歴に関しては、個別具体の大学名、企業名を明記しないという加工を施している。
- 13) Sfは授業記録中のSfと同一人物である。Sj, Saについても同じ。
- 14) 京都市教育委員会のA氏の意見。A氏は元々、在日コリアンの生徒が多く学んでいたX中学校で民族教育に熱心に取り組んでいた社会科教師であった。
- 15) 御霊会とは9世紀から12世紀にかけて自然発生的に度々起こった疫神、怨霊を鎮めるための祭礼。群衆の熱狂的な歌舞を伴うことが多かった。
- 16) 呉永鎬2021「日本における人種差別—ヘイトスピーチから考える社会の問題」『歴史地理教育』920
- 17) 河原和之氏(授業のネタ研究会主宰者、立命館大学)の示唆による。
- 18) 小川輝光2013「学校史で学ぶ関東大震災」『歴史地理教育』809
- 19) 高嶺直己2023「中学生と考える関東大震災—なぜ朝鮮人虐殺は起きたのか」『歴史地理教育』959

**参考文献**

- 新井勝紘 2023 「描かれた朝鮮人虐殺を読み解く」『歴史地理教育』959
- 岸政彦 石岡丈昇 丸山里美 2016『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣
- 藤野裕子 2015『都市と暴動の民衆史—東京1905—1923年—』有志舎
- 2020『民衆暴力—揆・暴動・虐殺の日本近代』中央公論新社